

黒石市立図書館整備基本構想・基本計画（案）  
に対する意見募集結果について

黒石市立図書館整備基本構想・基本計画策定にあたって市が実施した意見募集に対し、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。  
いただいた意見の概要とそれに対する市の考え方は下記のとおりです。

記

1 意見募集期間

令和2年1月15日から令和2年2月14日まで

2 募集対象

- ・市内に住所を有する人
- ・市内に事務所または事業所を有する個人および法人その他の団体
- ・市内に通勤または通学する人

2 募集方法

広報くろいし及び市のホームページに募集に関する情報を掲載し、計画案を市企画課、スポカルイン黒石図書コーナー、市のホームページにおいて公表、閲覧を実施しました。

意見提出は、所定の用紙または任意様式に、件名、氏名、住所（市外の方は通勤・通学先も記入）、連絡先を明記を条件とし、提出方法は、市企画課に持参または郵送、ファクシミリ、Eメールで送付のいずれかの方法によることとしました。

3 提出された意見

2人の方から延べ3件の意見をいただきました。

（提出された意見の内容とそれに対する市の考え方）

No.	意見の概要	市の考え方
1	建物のライフサイクルコストの低減化への有効対応策として、設計・施工・建物管理・施設運営を一括で行なう官民連携方策をご検討いただきたい。	設計事業者の選定において、施設の長期的利用や維持管理費の抑制ができることを条件とするとともに、市教育委員会が管理運営することで、効率的・効果的な事業展開を図ることができると考えております。
2	施設運営について、中心市街地活性化基本計画にある他事業への関わりやこみせ・商店街の賑わいやサードプレイス化のため、市民協働の官民連携も設計時から盛り込んでいきたい。	本計画案は、生涯学習の研究者や司書、建築士など有識者の助言を受けながら、教育、文化、商工、福祉の関係団体代表と幅広い世代の市民が意見交換を行い、その結果を基にまとめました。 基本理念の一つに「憩いと賑わいの図書館」を掲げているとおり、施設運営に関しても、中心市街地活性化にも寄与できるよう、周辺施設、ボランティアや関係団体と連携を図ってまいります。

3	<p>補助金に頼らず、専門家と実績のあるコンサルタント会社のアドバイスを受け、時間をかけて市民が話し合い、広く市民と協働する図書館システムを構築することを切に願います。今の整備計画を白紙に戻し、一からやり直してほしい。</p>	<p>補助金の活用は本市の財政状況を鑑みて図書館整備に必要なものです。</p> <p>市立図書館は、長年に渡り要望活動や意見交換が行われてきたものであり、本計画案の策定においても多数の市民が意見交換を行い、基本理念の一つに「市民の力を育む図書館」を掲げ、市民との協働を図ることとしました。</p> <p>本市における図書館システムの構築につきましては、市立図書館を中心にボランティアや関係団体と連携を図りながら、各地区の状況や費用対効果などを考慮し、地域の実情に根ざしながら取り組んでまいります。</p>
---	---	--

4 ご意見全文（原文のまま記載しています）

<p>意見①</p> <p>黒石市立図書館整備基本構想・基本計画（案）</p> <p>II 基本計画</p> <p>5 今後の進め方</p> <p>3年度に渡る各段階毎のスケジュールが示されていますが、従来のプロポーザルや入札等による設計業者の選定と実施設計の段階、それに続く入札や総合評価による施工業者の選定と建設工事の段階、そして運営計画策定の段階と分けて進めていくこととも受け取れます。</p> <p>人口減少の趨勢の中で、建物のライフサイクルコスト（LCC）の低減化はこれからの公共建築建設の必須条件なので、その有効対応策のひとつとして設計・施工・建物管理・施設運営を一括で行なう官民連携方策をご検討いただきたいと思います。</p> <p>設計時において、建物の高耐久性と共に工事施行性や建物完成後の維持保全性向上を確保するために、設計業者だけでなく工事施工者や建物管理者の意見も当初から反映させて行くことの重要性をご認識いただきたい。また特に、施設運営に関わる方々の意見も当初設計時から反映させて行く必要があると考えます。</p> <p>施設運営については、黒石市中心市街地活性化基本計画にある「市民サービス施設整備」「街なみ環境整備」等々への関わりや既存のスポカルインやこみせ・商店街の賑わいやサードプレイス化のため、市民協働の官民連携も設計時から盛り込んでいきたいものだと考えます。</p> <p>国が進める官民連携（PPP）の推進事例として、国交省総合政策局資料による官民連携手法の類型の中のDBO(Design Build Operate)による、公的事業を民間事業者へアウトソーシングする方策などを取り入れていただきたいと思います。</p>
--

## 意見②

「黒石市図書館整備基本構想・基本計画（案）」 p. 3～6 について

- 今回の図書館整備での一番の肝は、「図書館という箱物を建設する資金をどこから引っ張ってくるか」ではなく、「黒石市の厳しい財政状況の下で構築できる、黒石に相応しい図書館システムのあり方とは何か」について、専門家と実績のあるコンサルタント会社のアドバイスを受け、広く市民に意見を求め、時間をかけて基本構想を策定することだったと思います。
- 基本構想ではまず「現状分析」が重要であり、そこでは現在活用できるリソースについてきちんと評価することが必要です。そうすれば、2020年3月で利用可能な小中学校の空き校舎が複数生じる、ということがわかったはずですが。
- そして何よりも大切なのは「図書館とは何か」「黒石市の考える図書館とはどういうものか」「それによって私たちは黒石市をどうしたいのか」という理念です。この理念は図書館の魂と言っているいいものですが、この魂こそが、基本構想の中心となります。
- これから設計や運用計画などで市民との協働がますます必要となります。なぜなら、市民が「図書館は我々のもの」という当事者意識を持たないと、いい図書館は生まれませんし、作っても誰も利用しなくなるからです。そのためには市民と行政の「イコールパートナーシップ」の構築が求められます。「図書館＝建物」ではなく、「図書館＝システム」と考え、広く市民と協働して図書館整備を進めてほしいと切に願います。
- 私個人としては、黒石の図書館整備は、隠岐諸島海士町の「島まるごと図書館」をモデルにして進めることで、時間はかかっても、補助金に頼らず、自前のリソースを活用して、高齢者や子どもたちが利用しやすい、市民に寄り添った独自の図書館システムを構築できるのではないかと考えています。中心市街地活性化計画の補助金に頼らなければ、もっと時間をかけて図書館のあるべき姿をみんなで話し合い、意識を共有できるはずですが。そうすれば自ずと市民に当事者意識が芽生え、素晴らしい図書館システムが構築できます。  
「他では見られない、黒石らしい、いい図書館ですね！」「厳しい財政状況で、よくここまでできましたたね！」「さすが、黒石市民の意識は高い！」将来このように評価される、市民の暮らしに直結し、学ぶ喜びを生み出し、子どもたちの将来の夢を与え、地域活性化の拠点となり、世代を超えた触れ合いや結びつきが生まれる、他に誇れる図書館を作るために、奮勇を振るって、今の整備計画を白紙に戻し、一からやり直してほしい、これが率直な気持ちです。

担当	黒石市企画財政部企画課市民参画交流係
電話	0172-52-2111（内線 236）
F A X	0172-53-1839
Eメール	kuro-sankaku@city.kuroishi.aomori.jp